

中学校「技術・家庭」家庭分野における 着装学習の指導方法に関する研究

— 衣生活の自己・他者分析を通じた評価活動の検討 —

村上かおり 鈴木 明子 木下 瑞穂
藤井 志保 林原 慎 一色 玲子（研究協力者）

1. はじめに

中学校「技術・家庭」家庭分野における着装学習は、被服の社会生活上の機能を理解し、目的に応じた着用や個性を生かした着用の工夫を学習する上で重要である。これまでの着装学習においては中学生の発達段階を考慮した教材や授業の開発が行われているが、家族や家庭生活の変化や消費生活の変容に応じて、衣生活の営みも変化しており、着装学習の意義を改めて問い直すことが求められている。このことは、教科目標のとの関連において着装学習のあり方を再考することでもある。

これまでの研究^{1) 2)}において筆者らは、個性を生かし、自己を表現する着装を考えるときの要素として、自分に似合う色彩に着目、検討してきた。一昨年度には生徒が描いたデザイン画をコンピュータ上で教材化することを試み、カラーコーディネートを学習する指導法について検討した。また昨年度は「パーソナルカラー」探しを通して、自分に似合う色を自己評価及び他者評価する活動を取り入れることを試みた。その結果、デザインやシルエットなどの形態、色彩、テクスチャーなどの衣服デザインの構成要素の中でも、色彩は自分らしさや自分らしい着方をとらえる上で効果的な要素であることとらえていることが明らかとなった。また、自己評価とともに他者評価を行うことによって、自己を客観視しやすくなり、パーソナルカラーという教材は、自己と他者との関係を意識させるために有効な教材であることを確認した。

本報告では、着装における自分らしさや自分らしい着方について色彩を中心として学習する際に、自分の衣生活の実態や課題をみつめ、授業で学習したことを生かして着装できるようになることをねらった。すな

わち、生活知と学校知の結びつきを意図した。

家庭科では、衣服の機能や色彩の原理を理解するにとどまらず、それらを媒介として衣生活を快適に豊かに営むために、「どのように着るか」「どのように選ぶか」などの生活行為を追求することが必要である。それによって自己と対象であるモノや他者との相互応答的關係を実感的に理解することができ、生活の営みを総合的に認識することにつながると考えられる。

そこで本実践では、まず長期休暇の課題として、生徒の日常生活の着装行動を自己評価ならびに他者により評価をしてもらう活動を取り入れた。それによって、個々の衣生活を多面的にとらえ、衣服や着装に対する関心を高めるよう働きかけた。また製作中のベストを自分が着装した際のデザイン画を描くことによって、着装イメージを具現化し、製作活動の過程で着装イメージに与える影響が大きい色彩の要素に着目させた。

これら2つの取り組みを行う中で、本時ではパーソナルカラー探しを通じた自己と他者による相互評価を行った。昨年度効果を認めたパーソナルカラー探しの時間を短いながらも一人ひとり確実に設定し、コミュニケーションを充実させた。

以上のように、着装学習とその評価活動に関する指導方法に検討を加え、実践し、その効果を検証した。さらに、長期休暇の課題も含めて評価活動の有用性についても検討することを目的とした。

2. 授業の視点と指導計画

本報では、着装学習の中に自分に似合う色を探す評価活動と友達に似合う色を探す評価活動を取り入れることにより、個性の表現や着装に関する知識・技能を

習得し、自分らしい着方を工夫して実生活に生かすための指導方法の開発を試みた。

以下に題材の指導計画と本時の学習指導案を記す。

学習指導案

日時 平成21年12月18日(金) 4, 5 時間目
対象 広島大学附属三原中学校 9 学年 1 組 (41 名)・2 組 (41名)

授業者 藤井志保

指導計画 (全19時間)

1. わたしたちの衣服製作 (衣服の構成を知ろう, 製作の計画を立てよう) … 1 時間
2. 製作の準備をしよう … 2 時間
3. フリースベストを作ろう … 12 時間
(夏休みの課題「衣生活調査」, 「フリースベストのデザイン画作成」)
4. 自分に似合う色を考えよう … 1 時間 (本時)

※本時はフリースベスト製作12時間の間に位置づけた。

5. 衣服の手入れと補修をしよう … 3 時間

本時の題材名 自分に似合う色を考えよう

本時の目標

1. パーソナルカラー探しにおける自己評価および相互評価を通して自分らしい色について考える。(知識・理解)
2. 班員とコミュニケーションをとりながら, 相互に似合う色を客観的に伝えることができる。(技能・表現)
3. 着装の要素と衣服選択の条件について理解する。(知識・理解)
4. パーソナルカラーを自分らしい着装に生かそうとする。(思考・判断)

題材観

中学校「技術・家庭」家庭分野における着装学習は, 被服の社会生活上の機能を理解し, 目的に応じた着用や個性を生かした着用の工夫を学習する上で重要である。中学生としての衣生活の自立を目指して自分らしい着方を主体的に工夫することができるように, 衣服選択の条件の一つとして自分に似合う色を考える学習をおこなった。

生徒観

生徒は自分らしい着方の要素として色を意識し, 個性の表現に関心をもっているものの, 他者からその印象を評価される機会は少ない。また, 夏休み中に課題として日常の衣生活調査をおこなっており, 日常着の機能や配色などに興味をもっている。

指導観

事前の課題を導入に位置づけることで, パーソナル

カラーの学習と日常生活を結びつけ, 衣生活全体を見直すことができるよう工夫した。また, グループ学習, 各生徒のカラー布選択の時間を設けることで, 布を介したコミュニケーションが活発におこなわれるようにした。さらに実際に布を用いることにより, 生徒間の直接的で客観的な評価, 表現といった学習活動が期待できる。これらの活動を通して着装と色についてとらえ直させ, 実生活での衣服選択, フリースベスト製作につなぐ展開とした。

授業展開

学習内容	時	指導過程・学習活動
導入	5	夏休みの課題「衣生活調査」から数名の記述を取り上げ, 自己評価と他者評価にもとづく着装の要素に気づかせる。その中で衣服選択における色の扱いについてコメントする。
展開 自分のパーソナルカラーを探そう	5	カラー布選びの説明をする。
	4	33色の布から自分の好きな色と自分に最も似合うと思う色の布を一枚選ぶ。選んだ色はワークシートに記入し, 他者には伝えない。
	22	4～5 人班をつくり, 班内で 1 人 4 分ずつ, 自己評価, 他者評価をおこない, 似合う色とその理由を考える。
	3	各班で 1 人, 全体で発表する人を決める。カラー布選び時のエピソードや感想を発表する準備をする。
	7	2 班共に, 各自が選んだカラー布を自分にあてて立ち, 代表者 1 人がその選択理由について発表する。
まとめ	3	本時のまとめ ワークシートに感想を記入する。自己評価, 他者評価を通して, 自分に似合う色を客観的に考えることができたかを確認する。 場や目的に応じた色の使い方を紹介し, 本時の学習を自分の衣服選択に活用するよう伝える。
	5	次時の説明 フリースベスト製作に使うファスナーを 18 色から選択する。

3. 成果と課題

まず着装に対する関心を高めるよう働きかけるために, 提出してもらった夏休みの課題について述べる。課題の衣生活調査は, “自分の「衣生活」を見つめてみよう!” という内容で, 日頃制服を着用している生徒たちが制服以外の衣服を着用する機会が多くなる夏

休みに、ある一日の衣生活を振り返るものである。

着用場面に分けて、服装を上半身、下半身に分けて図で示し、その服装を選んだ理由やその服装に対する自己評価と他者評価を書いてもらった。その一例を表1に示す。

授業では、13件の調査結果の成果をパワーポイントでまとめて提示した。その中の5例を表1に示す。服装を選んだ理由やそれぞれの評価に、本時で学ぶ「色」のことを書いている例が多く、衣服選択に色の要素が大きくかかわっていることが、自己評価を通して認知されていることがうかがえた。また着装場面に応じて、デザインや素材を考慮している例も見られた。その点を家族や友達など他者により評価されていたことは、彼らの衣服選択の自信につながったのではないかと考えられる。このようにコメントや評価の中から、衣服選択の条件を挙げ生徒同士で考えを出していく過程を通じて、個々の衣生活を多面的にとらえ、衣服や着装に対する関心が高まっていることがわかった。

次に衣服選択で最も影響が大きかった「色」について学ぶ、カラー布選びへと展開させた。はじめに3人のモデル役の生徒にカラー布を首元にあてた写真を準備しておき、それらを提示した。生徒たちは、「これ似合う」「これ違うなあ」などに関心をもって、意欲的に取り組もうとしていた。夏休みの課題のなかで、自己と他者による評価活動を通じて衣生活を振り返るという経験したことによって、「色」に対する関心が高まり、個人と「色」という関係を具象化することができたため、学習意欲が喚起できたと考えられる。

カラー布選びは班活動により行ったが、1人4分間の時間を守りながら、班のメンバーのパーソナルカラーを選定した。資料1にパーソナルカラー探しの様子を示す。実際に布に触れながら、日頃一人のクラスメートとして接している友達の顔を見て、積極的に意見を出し合いながら色を選んでいった。その結果を班で話し合い、発表して全体での交流につなげた(資料2)。生徒たちは班活動だけでなくクラス全体で自分以外の人の子のエピソードを聞くのが楽しそうであった。恥ずかしがって、布をあてて顔を上げることができないおとなしい人に対して、「がんばれー！顔あげー！」といった温かい声も出ていた。班活動を通じて、全員が班のメンバーそれぞれのパーソナルカラーを選んだことにより、全員が「自分に注目してもらえる時間」があった。また、普段あまりその人の特徴やイメージを直接言葉で伝える機会はないが、色を通じて表現することができるので、容易にコミュニケーションをはかることができた。すなわち、カラー布が人と人とのコミュニケーションの手段になり、人間関

係作りに役立ったと考えられる。

発表後、生徒はワークシートにパーソナルカラー探しを通じて感じたこと、考えたことを記述した。それらを、自分が似合うと思う色とパーソナルカラーが同じか違うかによって整理し、コメント例を表2にまとめた。違う人が同じ人より少し多い結果となったが、いずれも色に対する興味、関心を高めた様子が見え、他の人のパーソナルカラーを選ぶことが楽しいと感じた人や、友達のことを知ることができて良かったという意見もあった。色という要素で、他者を評価することができることに気付いた人もいた。

資料1 パーソナルカラー探しの様子



資料2 全体での交流の様子



表1 夏休みの課題 『自分の「衣生活」を見つめてみよう』








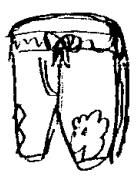


場面	どんな服装？		自己評価	他者評価（家族や友達）
	上半身	下半身		
塾に行くとき	 綿50% ポリエステル 50% 緑色のTシャツ	 羊ずぼんのジーンズ 色は青色 綿100%	ジーンズは上半身に何色を着ても合わせやすく、気に入っている。Tシャツも緑色が好きなので。	きれいなグリーンのTシャツとジーンズが活発な感じがいい。
遊びに行くとき	 白の柄Tシャツ  赤のチェックTシャツ	 黒のサリエルパンツ	動きやすい素材だから。温度調節がきく。黒いパンツと白いTシャツで色がな分、チェックのシャツでバランスをとる！ ゆったりしたボーイッシュな感じかな？	ズボンがかっこいい。ズボンの生地が柔らかくて動きやすそう。
遊びや塾に行くとき	 赤らさき色のTシャツ 黒ベルト 綿50% レーヨン50%	 短パン	全体的に黒っぽい感じ。Tシャツは着心地がよく薄い感じで涼しい。短パンは自転車をこぎやすい。	レーヨンが入っているから普通のTシャツの方がいい。黒のベルトがあっおしゃれだし、動きやすいからいいと思う。
プールに行くとき	水着	 水着	デザインもよくてかっこいい。とてもはきごちがいい。	黒と白のモノトーンで大きな花柄が似合っていた。セクシーだと思う。
野外コンサートに行くとき	 黒いTシャツ	 こいフェリーのシャツをまぶす 花柄のパンツ	外で暑いので半袖にした。日焼けしたくないのであまり肌を出さないようにした。楽で暑い中でも大丈夫だと思う。	日差しが強いのでシャツをはおったりできていいと思う。

表2 ワークシートの分析

自分が似合うと思う色とパーソナルカラーの相違	人数	コメント例
同じ	31	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの色を選ぶときとても迷ったし、なかなか決まらなかったの、パーソナルカラーを見つけるのは難しいなと思った。 ・自分と考えた色と合っていて、自然にその色のものが増えていて、周りのみんなも似合うと思うようになるのかなと思った。 ・もっと自分に似合う色を研究してみたい。 ・普段着ている服の色や持ち物の色と同じだったことがわかった。 ・もっとしっかり色を選ぶことをしないといけないと思った。 ・服を選ぶときにもう少ししっかりとした考えを持って買いたい。 ・服を買う時に意識したい。 ・いろんな色を買ってみようかなと思った。 ・色で人の個性はひきだせるし、印象も変わることを改めて学んだ。 ・季節でも服の色は違うと思う。 ・家族に似合うと言われている色と同じだったので、やっぱりと思った。 ・自分の主観と人が見る客観とは思っていることが全然違うんだなと思った。 ・イメージカラーが似合わないと思える人がいた。 ・やはり服は機能だと思った。 ・自分が思っていた通りの色になったけれど、自分のイメージを変えたい。
違う	40	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は青や緑とか明るい色が良いと思っていたけど、友達落ち着いた色を選んでくれた。普段学校ではあまり元気な方ではないのでそれらが影響しているのかなと思った。 ・今日はみんなのことをいろいろと知れたと思った。 ・色を変えることで見た目の印象が変わったり、明るく見えたり、暗く見えたりすることがわかった。 ・周りの友達の色を見るのも楽しかった。 ・普段のイメージを優先して色を見がちだが、案外、違う似合う色が見つかったりした。 ・色によってその人の印象や雰囲気がとても変わることがわかった。 ・自分の好きな色と似合っていると思う色とは全然違ったりして、自分の印象などが少しわかった。 ・自分は色にはたいして考えたことはなかったけど、似合う色がわかったの、興味を持って関心を持って家でも（パーソナルカラー選びを）してみたい。 ・色で人が表せるなと思った。人の（パーソナルカラー）を選ぶのが楽しかった。 ・服を選んでいるようで楽しかった。 ・服を着るとき、色を考えることはなかったけど、考えてコーディネートしていきたいと思った。 ・自分や周りの人の新しい一面を発見できた。

違うと答えた人のなかには、「普段学校ではあまり元気な方ではないのでそれらが影響しているのかなと思った」「自分や周りの人の新しい一面を発見できた」というコメントもあった。このように自己や他者の印象をとらえなおしたり、客観的にとらえることができていた。

また色の要素が強いことを認識しながらも、「やはり服は機能だと思った」生徒がいた。この気付きは、デザインや素材、着心地、動きやすさなどの観点から、衣生活の自己・他者分析をした夏休みの課題を整理し、導入に用いたことが、導いた結果ではないかと考えられる。

さらに、「もっと自分の似合う色を研究してみたい」という意欲を感じた生徒や、「これからの衣服選びに

生かしたい」「いろんな色を買ってみようと思う」と、学校知の成果を生活知に結び付けたいと考えた生徒も多くみられた。

しかし、一部には楽しくレクリエーション的な活動の傾向が強いため、「色」という要素について、実生活での衣服選択に結びつけられなかった生徒も見られた。

授業の最後に、次回の授業に向けてフリースベスト製作に使うファスナーの色選びをし、実際に着装する場面への展開を試みた。完成したベストを着装した自己と他者がお互いにどのように評価するのか、本時の学習成果がどのように反映されるのか、今後課題として検証したいと考えている。

4. おわりに

生徒の日常生活の着装行動を自己評価ならびに他者により評価してもらう活動を取り入れた結果、生徒自身が個々の衣生活を多面的にとらえ、衣服や着装に対する関心が高まる様子が示された。

衣服デザインの構成要素は、デザインやシルエットなどの形態、色彩、テクスチャーや風合いなどの材質感である。これらをTPOという場面に応じて、適性を考慮しながら衣服選択を行っていることを、自己評価を通じて認識するなかで、生活知と学校知の結びつきが行われていることが明らかとなった。これより、色のみでなく複合的な着装のあり方を学習できる実践方法として、自己と他者による評価活動は有効であることが示唆された。

被服は「第2の皮膚」と呼ばれ、「人」にとって最も身近な環境にある。着装し服飾された自己は他者に様々な印象である刺激を与え、他者は着用者と服飾の関係について、似合っているか、また場に適しているかなどを評価し、反応を示す^{3) 4)}。

衣服を着装するとき、自己のイメージに適した衣服、その場に適した衣服を着装し、心理状態にも適した衣服を着装することが着心地を高めることになる。またそれは自己評価だけでなく、他者による評価によっても高められる。衣は、このように自己と他者の二者によって相互的に反応と刺激を与えあう⁵⁾。

この反応と刺激の働きを、衣生活の自己と他者による分析を通じた評価活動として行うことは、着装学習の指導方法として、実践的能力を身につける手助けになると思われる。

さらに着装学習のあり方の追究と指導方法の検討を重ねていきたい。

引用（参考）文献

- 1) 木下瑞穂, 鈴木明子, 藤井志保, 箕島隆, 「家庭科におけるコンピュータを利用したカラーコーディネートに関する指導方法の検討—生徒が描いたデザイン画を元に—」, 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 第36号,513-516,2008.3
- 2) 鈴木明子, 村上かおり, 木下瑞穂, 藤井志保, 箕島隆, 一色玲子, 「中学校「技術・家庭」家庭分野における着装学習の指導方法に関する研究—「パーソナルカラー」探しを通じた評価活動の検討—」, 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 第37号,301-306,2009.3
- 3) 藤原康晴, 伊藤紀之, 中川早苗編著, 『服飾と心理』, 放送大学教育振興会, p.1,2005.
- 4) 日本家政学会編, 『表現としての被服』, 朝倉書店, p.110,1989.
- 5) 京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部編, 『生活のまなざし』, ナカニシヤ出版, p.49,2008.